

# ハッ場ダム本体及び資料館の開放にあたって ～新型コロナウイルス対応など～

高橋 静香<sup>1</sup>・小林 幸夫<sup>2</sup>

<sup>1</sup>〇利根川ダム統合管理事務所 地域連携課 (〒371-0846 群馬県前橋市元総社町593-1)

<sup>2</sup>〇利根川ダム統合管理事務所 ハッ場ダム管理支所 (〒377-1301 群馬県吾妻郡長野原町川原畑1121-31)

ハッ場ダムは、首都圏の洪水被害の軽減及び水道用水等の確保を目的として建設され、令和2年3月に完成した。

本稿では、ダム完成にあわせて観光の拠点及びダム事業の理解促進を目的として一般開放となったハッ場ダム本体及び資料館について、新型コロナウイルス対応を中心とした開放にあたっての課題と対応策について報告するものである。

キーワード 見学者対応、新型コロナウイルス、資料館、ダム広報

## 1. ハッ場ダムの概要

ハッ場ダムは、利根川水系吾妻川中流の群馬県吾妻郡長野原町に位置し、洪水被害の軽減のための洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道・工業用水の補給及び発電を目的とした堤高116mの重力式コンクリートダムである。(図-1)

昭和22年のカスリーン台風による首都圏の大規模浸水被害を契機として、昭和27年に予備調査に着手し、昭和42年の事業着手以来、昭和・平成・令和の3つの時代を経て令和2年3月にハッ場ダムが完成した。



図-1 ハッ場ダム位置図・ダム諸元

令和元年10月1日から開始した、ダム堤体及び貯水池周辺の安全性を確認する試験湛水については、令和元年台風19号による出水により満水に達している。(図-2)



図-2 ハッ場ダム試験湛水(満水)

ハッ場ダム周辺には、年間300万人が訪れる草津温泉をはじめ、四万温泉、伊香保温泉、軽井沢など観光地が多数あり、ハッ場ダムを新たな観光拠点として周辺観光地と連携するべく、堤体を一般開放するとともに、ダム事業についての理解促進を図るため、ダム管理支所に併設した「なるほど!やんば資料館」をダム完成と同時に開放する予定であった。

## 2. 新型コロナウイルス対応の検討

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止策については、東京五輪・パラリンピックが延期されるなど社会・経済的に多大な影響を与えている。

ダム管理においては、危機管理としての洪水調整に加え、平常時においても用水の補給などダム操作が必要となる。ダムの操作は、ダム毎に異なることから代替要員

の確保が困難であり、不特定多数の者が利用する学習交流施設・ダム等の管理施設及びダムカードの配布については、ダム管理上の観点からより慎重な対応が求められている。

このような背景から、一般開放にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針などを参考に感染拡大防止対策を実施した。

### (1) 屋外施設の一部開放

令和2年5月25日に全国において緊急事態宣言が解除されGOTOトラベル事業が開始されるなど都道府県をまたぐ観光振興へと取り組みが推進される中で、博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを参考に「ハッ場ダムにおける新型コロナウイルス感染症対策」について検討を行った。

屋内施設については、ダムカードの配布中止が継続している状況などから引き続きオープンを延期し、屋外施設の一部（ダム天端及び展望デッキ）については、発熱などの症状がないこと及び他の人との十分な距離をとることなどを遵守することを条件に令和2年7月7日に開放した。（図-3）

開放にあたり、トイレについては資料館内のみを設置しており、屋外見学者対応のためパーティションで資料館内を仕切りトイレのみ利用させる案も検討したが、最終的には感染症対策を徹底させるため屋外に仮設トイレを設置した。



図-3 ハッ場ダム屋外開放範囲（令和2年7月時点）

### (2) なるほど！ハッ場資料館オープン

ハッ場ダムの資料館については、ダム建設時からダム事業の理解促進のため設置していたが、ダム管理支所に併設する形で新たに展示内容を見直し資料館を新設した。

#### (図-4)

新型コロナウイルス対策として、博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを参考にリスク評価・対策を行い令和2年11月1日にオープンした。

#### a)接触感染のリスク評価と対策

他者と共有する物品や手が触れる場所として、タッチパネルが該当したため機器を利用休止とした。

また、ダム管理職員と来館者の接触を避けるために、受付等は設けず無人での対応とし、ダムカードについてはカード発券機を用いた配布とした。

なお、カード発券機については通常のダムカードに加え期間限定のダムカードを配布することもあることから6種類のカードが発券できるタイプを導入した。

#### b)飛沫感染のリスク評価と対策

施設による換気の実施に加え、人と人との距離確保のため、展示室内の椅子撤去及び資料映像放映の休止、注意喚起看板設置、トイレ床部へ誘導サインを設置した。

#### c)集客施設としてのリスク評価

周辺の観光地の状況から県境をまたいだ来館が見込まれるため、政府の分科会がまとめた感染状況の指標などの状況に応じ一時閉館する体制とした。

#### d)地域における感染状況のリスク評価

群馬県において社会経済活動再開に向けたガイドラインを設定しており、地域の感染状況による警戒度を発表している。警戒度の状況に応じ一時閉館とする体制とした。



図-4 資料館外観及び資料館内部



### 3. 新規開放時の課題と対応

#### (1) 一般開放前の現地安全確認

今回開放対象となる、ハッ場ダム本体及び資料館については、多くの来訪者が予想される施設であり、万全な安全対策の実現に向けて、一般開放を前に希望職員（若手技術職員と女性職員数名）による現地確認を実施した。

現地確認の結果、外国人観光客など高身長の方が天井付近の突起物に接触するリスク、よちよち歩きの子供が模型の角に接触するリスクなど、当事者では気が付きづらい点について指摘があった。

小さな子供がいる母親視線でのチェックなど、改めて違う視点からの安全確認の重要性を実感した。

また、点検結果を踏まえ、ゴム等による養生を実施し、更なる安全対策を実施した。（図-5）



図-5 資料館ほか一般開放前の現地確認

#### (2) 一般開放後の追加安全対策

なるほど！やんば資料館の出入口は、駐車場側の自動ドアに加えて、湖面側へのアクセス用のドアが設置してある。

今回、ドア部分の段差により高齢の来訪者が転倒された事例があったことから、湖面側のドアについて追加の安全対策としてゴム製のスロープ等を設置した。

対象の段差は2～3cm程度であるが、足下の確認をせずに通過した結果であると思われる。

階段のような大きな段差は認識できても、小さな段差は気がつきづらいという点は反省事項である。（図-6）



図-6 資料館湖面側出入口（対策前）

### 4. 来訪者実績

#### (1) ハッ場ダム堤体来訪者

令和2年7月7日に一部を開放した、ハッ場ダム堤体の来訪者は令和3年3月末で約22万人である。

来訪者数の確認は、ダム天端に設置したセンサーによる数値であるが、当初は資料館にのみセンサーが設置されており、堤体開放と資料館解放時期がずれたことから急遽ダム天端に設置したものである。

センサーについては海外製であり、調達に時間を要したことから、当初の3ヶ月間はCCTVカメラ動画からのカウントとした。来訪者数としては、ダム建設中の令和元年度に展望台であるハッ場見放題で計測した約30万人/年と比べると少なくはなっているが、7月からの開放と新型コロナウイルスの影響を考えると、多数の来訪者であった。（図-6）

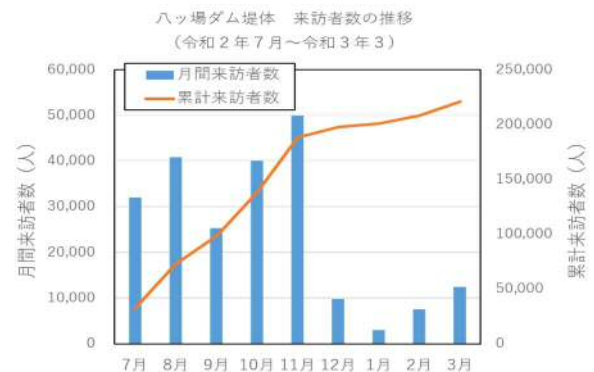


図-6 来訪者の推移及び状況写真

## (2) なるほど！やんば資料館来訪者

令和2年11月1日に開放した、資料館の来訪者数は約3万人であり、ダムカードについては資料館において約2万2千枚配布した。

資料館については、屋内施設であり新型コロナウイルス感染症対策の一環から12月末～2月の一時閉館などの影響があるとともに、資料館を通過しないでダム本体を見学できるルートもあることが影響していると思われる。(図-7)

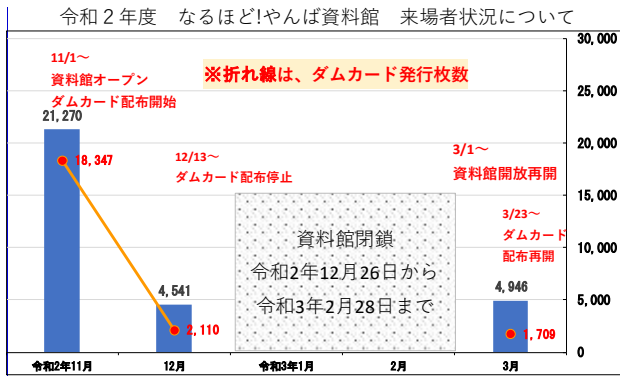


図-7 来訪者の推移及び状況写真

## (3) 来訪者の感想など

堤体及び資料館の来訪目的や満足度を調査するため、来訪者に対するアンケート調査を実施した。

来訪目的としては、ハッ場ダムを目的とした来訪や他の観光地からの立ち寄りなどであった。

アンケートの感想としては「新しくキレイ」など高評価のほか「入り口がわかりづらかった」などであった。

また、アンケート以外の聞き取りの感想としては、「大きさ高さにびっくりした」などであり、映像等では表現できないスケールの大きさを実感頂いている。

## 5. 今後の課題

ハッ場ダムは完成後新たに開放した施設であり、物珍しさからの来訪者が多数占めていると考えられ、今後再び訪れていただくための仕掛けが必要と考える。

ダム周辺地域については、令和3年3月に河川空間のオープン化に指定されており、資料館周辺についても飲食の販売を行うキッチンカーの出店など更なる賑わいを創出する取り組みを地元の長野原町と共に行っていく予定である。

## 6. おわりに

ハッ場ダムは、計画から68年をかけて「令和を開くハッ場ダム」として完成したダムである。

管理に移行したダムとして、今後も周辺の地域振興施設と連携した取り組みなど地域に寄り添ったハッ場ダムとして地域振興に寄与すべく取り組みを行っていく。

## 参考文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策本部：対策の基本的対処方針
- 2) 公益財団法人日本博物館協会：博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン